

赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）

この戦略は、赤磐市を「暮らしの場」として、「働く場」として、「生活を楽しむ場」として、「子育てをする場」として、今以上に魅力的なまちにしていき、赤磐市で生まれ育った人にとっては「ふるさと赤磐が心のよりどころ」となり、赤磐市に住んでいる人にとっては「赤磐市が愛着と誇りの持てるまち」となり、赤磐市に住んでいない人にとっては「赤磐市が魅力的なまち」となる、『住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたいと思われ選ばれるまち・赤磐市』を実現するため、人口減少問題に対応し、赤磐市が持続的に発展するための道筋を示すものである。

第 1 基本的な考え方

1 人口減少問題への対応と持続的発展に向けて

- 赤磐市の人口は、平成17年をピークに、減少傾向にある。今後、年少人口及び生産年齢人口の減少はさらに進むとともに、老年人口の比率が高くなる中で、後期高齢者人口が前期高齢者人口を上回ってその構成比を高めていくことが予測されている。
- このように、少子高齢化を伴う人口減少問題が顕在化する中、平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法が成立し、国が「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を示し、現在、県においても「岡山県人口ビジョン」及び「おかやま創生総合戦略」を策定中である。
- 本市においても、今こそ市民、事業者、行政、NPO等多様な主体が適切な役割分担の下で、目的を共有し、総力を挙げて、人口減少問題に対応し、持続的な発展に向けて取り組むべき時である。
- 現在、本市は、市の最上位計画である「第2次赤磐市総合計画」を策定中であり、この計画の中で、人口減少・少子高齢社会の到来を前提とした市の振興・発展施策を打ち出そうとしているところである。
- よって、この戦略では、国及び県の総合戦略を勘案しつつ、「第2次赤磐市総合計画」で明らかにする方針や「人口減少問題に対応し、持続的な発展に向けて取り組む施策」の内容を踏まえて、同計画を重点化し、また新たな施策を取り入れ、「まち・ひと・しごと」の創生に向けた対策を示す。
- また、戦略策定後の施策の実施に当たっては、前例にとらわれず多様な主体と連携し、赤磐市の資源を活かしながら、より実効性のある対策を推進するとともに、不断の見直しを行いながら、様々な事業を効果的に展開する。

第 2 総合戦略の計画期間

総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とする。

第3 赤磐市の資源を活かした人口減少問題への対策

1 基本的視点

赤磐市にある資源・魅力を有効に利活用することを基本として、早急に人口減少に歯止めをかけ、人口の増加を図っていくための対策を講じるとともに、将来的に人口減少が避けられないことが見込まれる地域においては、人口減少に対応できる地域づくりを進めていく。

視点① しごとの創生

雇用の質・量の確保による若者世代の地元就職やU I J ターン就職の促進（社会増）

視点② ひとの創生

結婚・出産・子育て・教育への切れ目のない支援による子育て世代・世帯の転入促進・地域定住促進（自然増）

視点③ まちの創生

支えあいによる快適に住み続けられる地域づくり（社会減抑制）

2 赤磐市の発展可能性

資源・魅力を活かす

- ・自然災害が少ない（大規模災害による被災の危険性が少ない、台風や集中豪雨などの風水害や積雪の影響が少ない）。
- ・道路交通網による広域交通の利便性が高い。
- ・山や農地など、多様で身近な自然が多い。
- ・地域に根付いた歴史と伝統文化がある。
- ・水稻、ぶどう、桃、黄ニラなど、全国的にも名を知られたブランド力の高い農産物がある。
- ・年間を通して降水量の少ない温暖な気候に恵まれている。
- ・比較的大きな経済・商業圏（岡山市）に近い。
- ・大型住宅団地等、手ごろな価格で住める良好な居住環境がある。

弱みを克服する

- ・人口に比べて市街地の規模・機能が小さい。
- ・一部大型住宅団地では、いわゆるオールドニュータウン問題に直面している。
- ・一部地域では、人口減少などの影響から生活利便施設等の開発があまり進んでおらず、また、公共交通網の維持が困難となっている。
- ・農業全体で見ると、従事者が高齢化、減少傾向にあり、耕作放棄地が増加傾向にある。
- ・医師の都市偏在や地域医療ニーズの多様化などにより、地域医療体制の維持に影響が現れている。
- ・小中学校に通う子どもの学力、問題行動等

3 基本目標

基本的視点から、以下の基本目標を設定する。

基本目標① 経済・産業に活力があり、ひとが集まるまちを創る

- 「地域に形成されている産業基盤をベースにした産業振興」を基本路線として、産業面における幅広い支援や関連する都市基盤整備の推進による既存商・工・観光産業の活性化や自然災害の少なさや広域交通の利便性の良さを活かした企業立地の促進を図り、高付加価値を生む産業を創出する。
- 地域に安定的で良質な雇用を確保することで定住人口の増加を図るとともに、産業の活性化により交流人口の増加が進む、賑わいと活気があるまちを創出する。
- 農産物の更なる高付加価値化や販路拡大等、安定的な所得確保が得られる力強い農業の確立を支援することで新たな担い手を確保し、赤磐市の基幹産業である農業の持続可能な発展を実現する。

基本目標② 安心して子育てができ、次代を担うひとが育つまちを創る

- 安定的で良質な雇用の確保により子育て世代の経済的安定の実現を図るとともに、男女の交流の場の提供等の結婚に結びつく支援、居住環境の充実を図り、若者が希望に沿って安心して家庭を築くことのできる環境を創出する。
- 『子どもは赤磐市の未来を担う宝』であることを基本に、家庭、地域、学校、事業者、NPO等の多様な関係者が『地域の子どもは地域で守り育てる』という共通認識と目標を持つことで、しっかりと手を携えて地域ぐるみで子育てを切れ目なく支える、出産・子育てにやさしい雇用環境、生活環境を創出する。
- 教育環境の良いところで子どもを育てたいという希望をかなえるため、子どもが落ち着いて学習でき、豊かな心とたくましく生きる力を健やかに育ていける教育環境を創出し、郷土に誇りと愛着を持ち、未来に向かって限りない可能性を切り開いていける人材を育成できる学校・地域をつくる。

基本目標③ 多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創る

- 地域の中心部に一定の都市的機能や日常生活に必要な機能の維持・集積を図り、地域同士を公共交通網や道路交通網で結ぶことで、多世代交流や多機能な支えあいが行える小さな拠点を形成し活性化を図る。
- だれもが住み慣れた地域で快適に住み続けられるよう、地域にあるものは地域で充足させ、ないものは他の地域や近隣市町との連携により充足させることを基本に、地域住民、事業者、NPO、行政等、多様な主体のネットワークにより効果的・効率的に各種サービスの提供や地域づくりが行える持続可能な体制を構築し、人と人のつながりにより支えあうことのできる地域をつくる。
- 働く意欲を持った高齢者の就労支援や高齢者が地域の支え手として福祉活動、地域活動等に参画できる体制を整備することで、高齢者の生きがいを進めるとともに、その豊富な知識、熟練した技術・技能が若い世代に継承される地域をつくる。

4 講ずべき対策

掲げた基本目標に対してK P I（重要業績評価指標）と講ずべき対策を定め、様々な施策を効果的に展開する。

基本目標① 経済・産業に活力があり、ひとが集まるまちを創る

< 1 企業誘致による安定的で良質な雇用の創出 >

対策の方向性

- ① 企業ニーズを踏まえた新たな用地確保
- ② 多様なライフスタイルに対応した雇用の場の確保、新規立地企業への雇用の支援
- ③ 地域の若者の定着、U I J ターンによる人材の確保が図れる企業の誘致
- ④ 市のイメージアップや誘客が期待できる企業の誘致

※具体的な施策の例は、資料4の2ページを参照

< 2 商工業・観光振興による賑わいと活力の創出 >

対策の方向性

- ① 交流・連携等による地域産業の活性化（生産性向上、高付加価値化等）、地域イノベーションの創出促進
- ② 農、食、自然、歴史・文化、スポーツ等、点在する観光資源の最適化による周遊できる観光ルートの形成と受け入れ環境の整備促進・情報発信
- ③ 創業と継続のための包括的な支援
- ④ 地域産業の振興による所得の向上と人口の増加推進
- ⑤ 地域資源の掘り起こし推進

※具体的な施策の例は、資料4の3ページを参照

< 3 強い農業の確立 >

対策の方向性

- ① 優れた経営感覚を備えた地域農業リーダーや新たな担い手の確保・育成の推進
- ② 農産物の高付加価値化、地域ブランド化の推進による生産者の所得向上
- ③ 地域で農産物の生産から加工・流通までを行う6次産業化の推進
- ④ 農産物の市場開拓・販路拡大
- ⑤ 農業経営の法人化、集落営農の組織化等、営農指導体制の強化及び生産・流通体制の強化促進
- ⑥ 遊休農地、耕作放棄地等の農地・園地の保全・集約等積極的な利活用
- ⑦ 次世代施設園芸拠点の整備とスマート農業の推進
- ⑧ 産官学の連携推進

※具体的な施策の例は、資料4の4ページを参照

基本目標② 安心して子育てができ、次代を担うひとが育つまちを創る

< 1 安心して家庭を築ける環境の創出 >

対策の方向性

- ① 良質な雇用の創出による子育て世代の経済的安定
- ② 結婚に結びつく出会いの支援
- ③ 多様化する生活様式と住宅ニーズに対応した居住環境の充実
- ④ 魅力ある多様な就業機会の創出による女性の活躍推進と経済的安定
- ⑤ 若者の地元就職の促進、U I J ターンによる赤磐市内への就職促進

※具体的な施策の例は、資料4の6ページを参照

< 2 安心して出産・子育てができる環境の創出 >

対策の方向性

- ① 妊娠、出産、子どものけが・病気、育児不安等に関する相談体制の充実と情報提供の推進による安心して子育てができる環境の整備促進
- ② 多様な保育ニーズに対応できる子育て支援サービスの充実
- ③ 地域の周産期医療、小児救急医療体制の維持
- ④ 親同士の交流が促進できる子育てネットワークの形成
- ⑤ 仕事と子育てが両立できる職場環境づくり支援（ワーク・ライフ・バランス）

※具体的な施策の例は、資料4の7ページを参照

< 3 子どもが健やかに育つ教育環境の創出 >

対策の方向性

- ① 学習意欲の向上と発達段階に応じた確かな学力の向上・定着が図れる教育環境整備の推進
- ② 豊かな心の育成とふれあいのある学校・幼稚園教育の推進・充実による心身ともに健康な幼児、児童、生徒の育成
- ③ 家庭教育における教育機能の充実
- ④ 特色のある学校・幼稚園づくりの推進
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 人間尊重を基盤とした人権教育・命の教育の推進
- ⑦ 家庭、地域、幼稚園・学校の連携推進
- ⑧ 郷土の価値、魅力を発見・再認識できる教育活動の推進

※具体的な施策の例は、資料4の9ページを参照

基本目標③ 多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創る

< 1 移住・定住が進むまちの創出 >

対策の方向性

- ① 赤磐市の魅力の積極的な情報発信
- ② 雇用や暮らしの情報提供体制・相談体制等、移住をサポートする体制の充実
- ③ 交通利便性やキャパシティ等、大型住宅団地の優位性を活かした移住・定住の促進
- ④ 空き家の利活用による移住・定住の促進
- ⑤ 農業体験等を通じた都市部等からの新規就農の促進
- ⑥ 就農と居住をパッケージ化した移住・定住の促進
- ⑦ 企業誘致、産業振興による働く場の確保

※具体的な施策の例は、資料4の11ページを参照

< 2 多世代交流と協働による多機能型の小さな拠点の創出 >

対策の方向性

- ① 世代、性別、障がいの有無、国籍等に関係なく支えあうことができる地域コミュニティの維持・育成
- ② まちづくりを担う人材の確保・支援
- ③ 市民、NPO、企業、行政等、だれもが連携・協働してまちづくりに参画できる体制の推進
- ④ 地域における小さな拠点の形成と周辺集落とのネットワークの形成
- ⑤ 社会貢献活動やコミュニティビジネスへの支援
- ⑥ 公共交通網の維持

※具体的な施策の例は、資料4の15ページを参照

< 3 高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域の創出 >

対策の方向性

- ① 就労、学習活動、スポーツ活動、地域活動等の社会参加促進と次世代への知識・技能の継承推進
- ② 心と体の健康増進による生涯を通して健やかに暮らせる生活の質の向上
- ③ 健康時から終末期まで可能な限り住み慣れた地域で暮らしていける、地域での支えあいによる包括的なケア体制の充実（介護予防、日常生活支援、医療等）
- ④ 医師や医療従事者の確保による地域医療体制と広域的な医療連携体制の維持

※具体的な施策の例は、資料4の17ページを参照

第4 戦略の実効性を高めるための基盤づくり

1 PDCAサイクルの確立

以下のPDCAサイクルを確立し、継続的な業務改善活動による効果的・効率的な地方創生を進める。

① Plan

地域の課題や特性を踏まえ、適切な施策と重要業績評価指標（KPI）を設定した総合戦略の策定

② Do

様々な主体との連携・協働による施策の実行

③ Check

行政や外部有識者会議による実績の検証・評価

④ Action

評価結果に基づいた施策の改善及び実施

